

中生モモの平棚仕立て栽培による早期成園化

○岡田眞治・中満一晴・岩谷章生・東 光明<sup>1)</sup>・藤丸 治<sup>2)</sup>  
 (熊本農研セ果樹・<sup>1)</sup> 球磨普及指導課・<sup>2)</sup> 熊本県農政部)

ビニルハウス栽培の早生モモやネット被覆栽培の晩生モモでは、平棚仕立てが徐々に普及しつつあるが、‘あかつき’‘なつおとめ’等の中生モモでは、立木仕立て(開心自然形整枝)が主流となっている。そこで、中生モモにおける早期成園化と作業の効率化のための最適な整枝法について検討したので、その結果を報告する。

【材料および方法】

**試験 1** 同一圃場内に 2001 年 1 月に植栽した ‘あかつき’ の、平棚仕立て改良 H 字形整枝と 2 本主枝開心自然形整枝の 3 樹ずつを供試し、2003 ~ 2005 年に掛けて、幹周、樹冠占有面積、着果数、収量および果実品質を調査した。また、5 年生時の主な作業時間も調査した。なお、植栽距離は前者が 4.0 m × 8.0 m、後者が 6.0 m × 8.0 m とした。

**試験 2** 同一圃場内に 2002 年 1 月に植栽した ‘なつおとめ’ の、改良 H 字形整枝と一文字整枝(イチジクに近い樹形)の 2 樹ずつを供試し、2003 ~ 2005 年に掛けて、試験 1 と同様の調査を行った。なお、作業時間は 4 年生時に調査した。

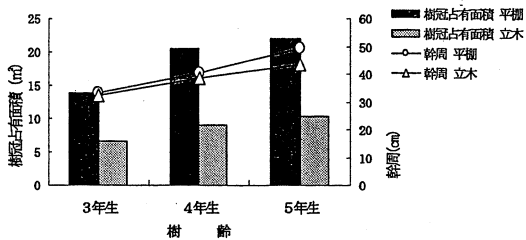
【結果および考察】

**試験 1** 1 樹当たりの樹冠占有面積および収量は、3 ~ 5 年生を通して、前者が後者の約 2 倍であった。また、累積着果数は約 1.8 倍であった(第 1、2 図)。果実品質については、前者は後者より 1 果

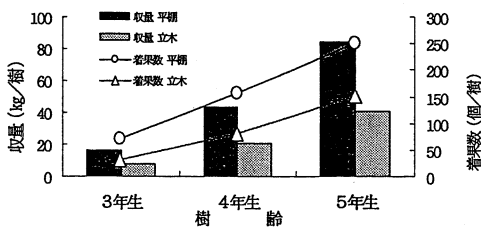
重が重く、糖度がやや低かった(第 3 図)。糖度の低い原因として、前者が後者より、果実肥大が良かったため果実内の糖が薄まったこと、新梢の伸びが良かったため果実への糖の分配が劣ったことなどが考えられる。なお、同樹齢の平棚仕立て樹を供試して、収穫前の 1 ヶ月間、不織布マルチで水切りをすることにより、糖度を無処理区より約 1 度上げることができた(データ略)。5 年生時での作業時間については、後者でも着果部がまだ全体的に低かったため、両者間に差がみられなかった(データ略)が、後者では中腰や膝をついての作業が多く、摘果の際に果実が見難かった。

**試験 2** 3、4 年生時での 1 樹当たりの樹冠占有面積、着果数、収量は、それぞれ、前者が後者の約 1.5 倍、1.8 倍、1.9 倍であった(第 4、5 図)。果実品質については、前者は後者より 1 果重が重く、糖度にはあまり差がみられなかった(第 6 図)。4 年生までは、後者では地上 1 m 以下に着果した果実がほとんどで、前者より作業がしにくかったが、5 年生から主枝より高い部分にほとんどの果実が着果するようになったので、作業性は今後改善されていくものと推察される。

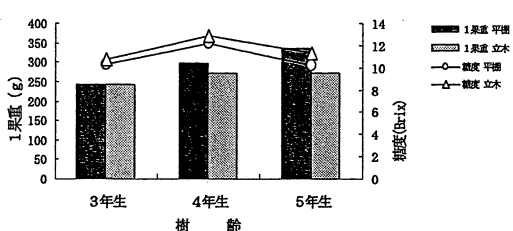
以上のことから、平棚仕立て改良 H 字形整枝が最も成園化が早く、若木時での作業性も優れていると考えられる。



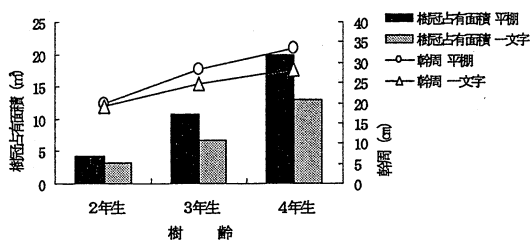
第1図 ‘あかつき’ 若木樹の樹冠占有面積と幹周の推移



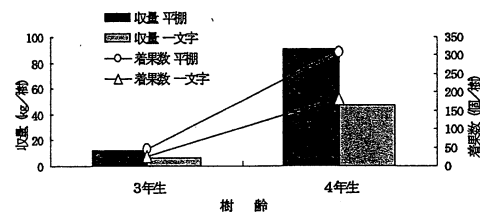
第2図 ‘あかつき’ 若木樹の収量と着果数の推移



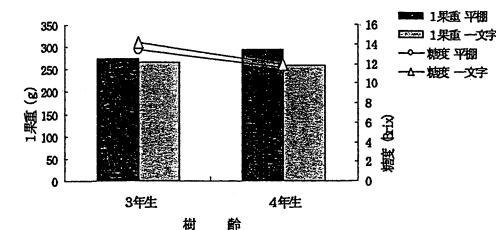
第3図 ‘あかつき’ 若木樹の1果重と糖度の推移



第4図 ‘なつおとめ’ 若木樹の樹冠占有面積と幹周の推移



第5図 ‘なつおとめ’ 若木樹の収量と着果数の推移



第6図 ‘なつおとめ’ 若木樹の1果重と糖度の推移